

3

中間処理(溶融処理)施設供用後に係る調査結果

3-1

大気質(ダイオキシン類)

施設周辺の大气質調査地点7地点において、残存廃棄物等の処理のため施設を稼働していた期間中である春季(平成23年4月1日～8日)の1季のみ、連続7日間の調査を実施しました。

その結果は表-19に示したとおりで、春季1季のみの調査ですが、参考として年平均値の環境基準(0.6pg-TEQ/m³以下)と比較すると、すべてこれを満足しており、さらに、三重県が平成22年度に実施した調査結果と比べても、各地点とも概ね同程度の値でした。

また、ダイオキシン類の調査は、施設稼働前から実施していますが、これまでの結果を経年変化として表-20、図-2に示しました。

その結果、施設の稼働前と稼働後では大きな変化はみられず、また、いずれも環境基準と比較すると大きく下回る値で推移しています。

なお、調査期間中の気象については、廃棄物処理センターの観測データから、昼間は北北西と南南東、夜間は北北西の風が多くみられました。

表-19 ダイオキシン類調査結果(単位: pg-TEQ/m³)

調査地点		No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	三重県の調査結果 (県内7地点)
調査時期									
平成23年度	春季	0.013	0.013	0.024	0.031	0.019	0.017	0.016	0.017 (0.0088~0.026)
平成22年度	春季	0.011	0.015	0.012	0.085	0.041	0.016	0.0099	

注1) ダイオキシン類の大气の汚染に係る環境基準は、「0.6pg-TEQ/m³以下(環境庁告示第68号、平成11年12月27日)」です。

注2) 三重県の調査結果は、「平成22年度のダイオキシン類環境調査等結果(環境森林部地球温暖化対策室、平成23年9月7日)」の春季の値「平均値(最小値~最大値)」です。

表-20 ダイオキシン類調査結果（年平均値）の地点別経年変化

(単位：pg-TEQ/m³)

年度 地点	平成 12年度	平成 13年度	平成 14年度	平成 15年度	平成 16年度	平成 17年度	平成 18年度	平成 19年度
No.1	0.080	0.035	0.032	0.032	0.022	0.043	0.025	0.029
No.2	0.077	0.040	0.045	0.029	0.024	0.024	0.022	0.017
No.3	0.082	0.027	0.057	0.047	0.031	0.036	0.034	0.031
No.4	0.083	0.035	0.048	0.044	0.036	0.036	0.034	0.024
No.5			0.055	0.058	0.033	0.026	0.034	0.026
No.6			0.039	0.048	0.020	0.019	0.029	0.022
No.7								0.022

年度 地点	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度
No.1	0.033	0.015	0.012	0.013
No.2	0.014	0.012	0.014	0.013
No.3	0.014	0.021	0.021	0.024
No.4	0.018	0.014	0.033	0.031
No.5	0.013	0.017	0.030	0.019
No.6	0.012	0.0096	0.017	0.017
No.7	0.016	0.014	0.018	0.016

注1) 施設は平成14年12月より供用開始。

注2) 表中の値は、年4回（各季1回）実施した値の平均値。

注3) No.5、6、7は補助調査地点のため、平成14年度より（No.7は平成19年度より）平成22年度までは、年間2回調査を実施しています。したがって、表中の値は各年度2回の平均値です。

注4) 調査地点について、No.1、2は平成13年度以前と、平成14年度以降では地点を変更しています。

注5) 平成23年度は春季1季のみの値。

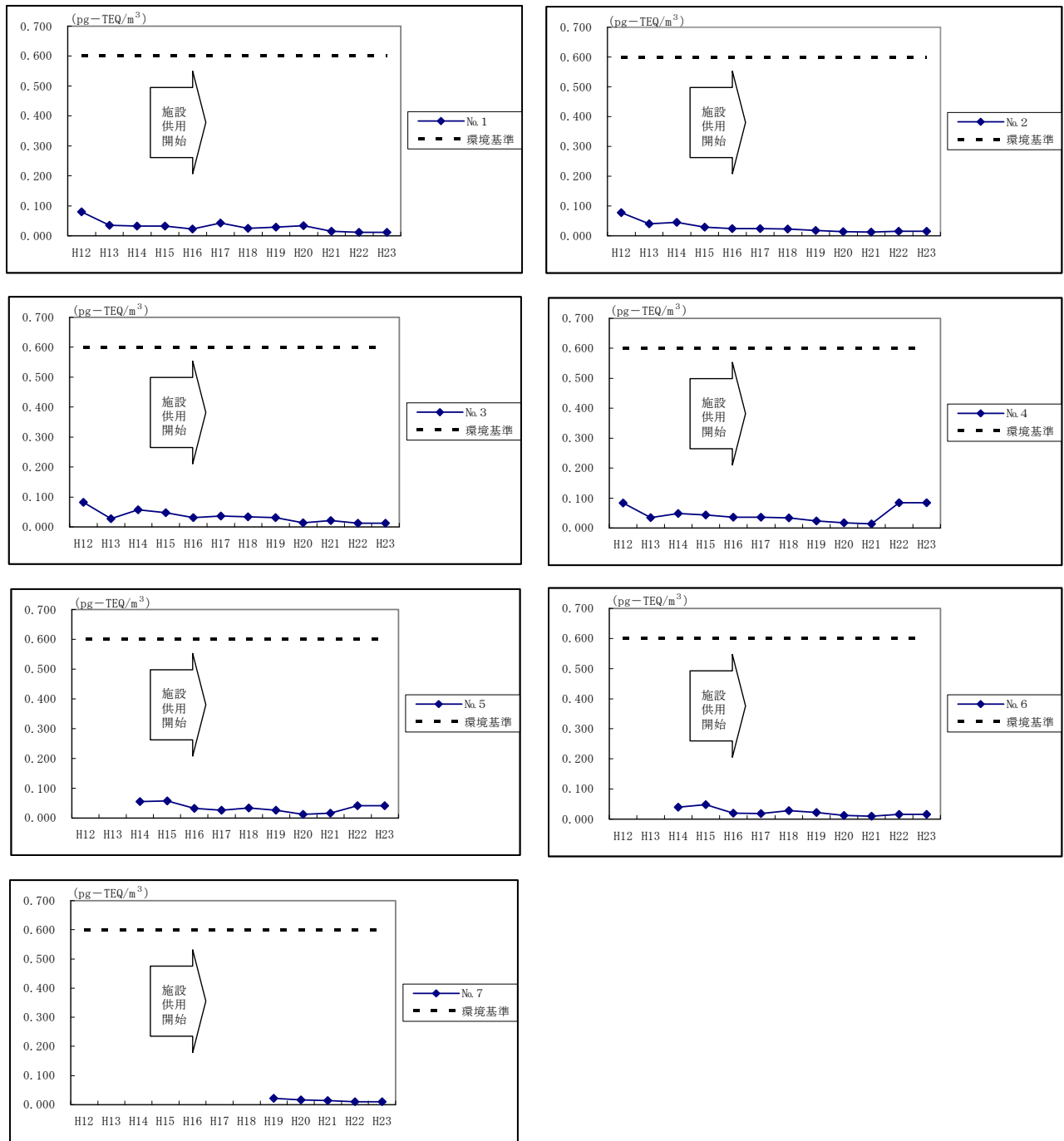


図-2 ダイオキシン類調査結果の地点別経年変化

施設においては、残存廃棄物等の処理を行った期間中に排ガスの測定（ばい煙測定・自動測定機器による連続測定）を実施しました。

ばい煙の測定結果は表-21 に示したとおりです。

自動測定機器による連続測定は、廃棄物の処理を行っている間実施することとしており、4月は4月1日～12日までの12日間、5月は5月5日～13日までの9日間で施設が稼働したため、その期間測定を実施しました。

その結果は、施設において閲覧に供するとともに、当事業団のホームページに掲載しています。

排ガス測定の結果は、ばい煙測定及び自動測定機器による連続測定とも、自主管理基準を満足していました。

また、ダイオキシン類については、図-3にも示したとおり、自主管理基準値を大きく下回る値でした。

また、施設稼働後におけるダイオキシン類調査結果の年度平均値（今年度は2号炉のみで、4月、5月の平均値）の経年変化を図-4に示しましたが、同図に示したとおり、施設稼働後から自主管理基準値を大きく下回る値で推移しています。

表-21 ばい煙測定結果（平成23年4月、5月）

項目	測定炉	測定結果		自主 管理基準
		4月	5月	
ばいじん濃度 (g/m ³ _N) (O ₂ =12%換算)	2号炉	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
硫黄酸化物濃度 (ppm) (O ₂ =12%換算)		6	4	20 以下
窒素酸化物濃度 (ppm) (O ₂ =12%換算)		16	37	50 以下
塩化水素濃度 (ppm) (O ₂ =12%換算)		10	2	30 以下
ダイオキシン類 (ng-TEQ/m ³ _N) (O ₂ =12%換算)		0.000044	0.00016	0.1 以下
一酸化炭素濃度 (ppm) (O ₂ =12%換算) 4時間平均値		11	11	30 以下
総水銀濃度 (mg/m ³ _N)		0.01 未満	0.01 未満	
カドミウム濃度 (mg/m ³ _N)		0.01 未満	0.01 未満	
鉛濃度 (mg/m ³ _N)		0.1 未満	0.1 未満	
酸素濃度 (%)		9.3	8.3	

注1) 4月の測定日は、2号炉：4月 6日、5月は、2号炉：5月10日です。
 注2) 1号炉及び3号炉は、運転を休止しています。

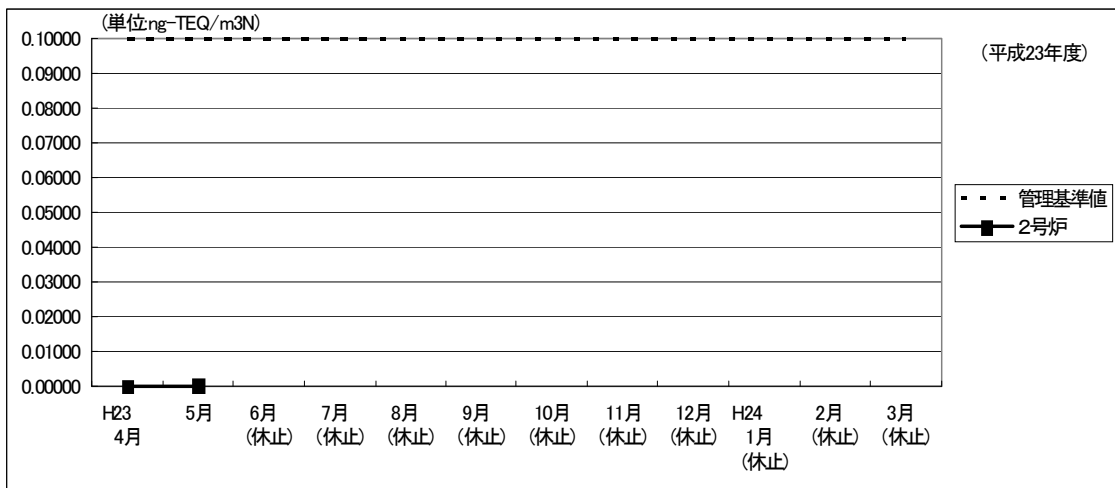


図-3 ダイオキシン類月別変化 (2号炉)

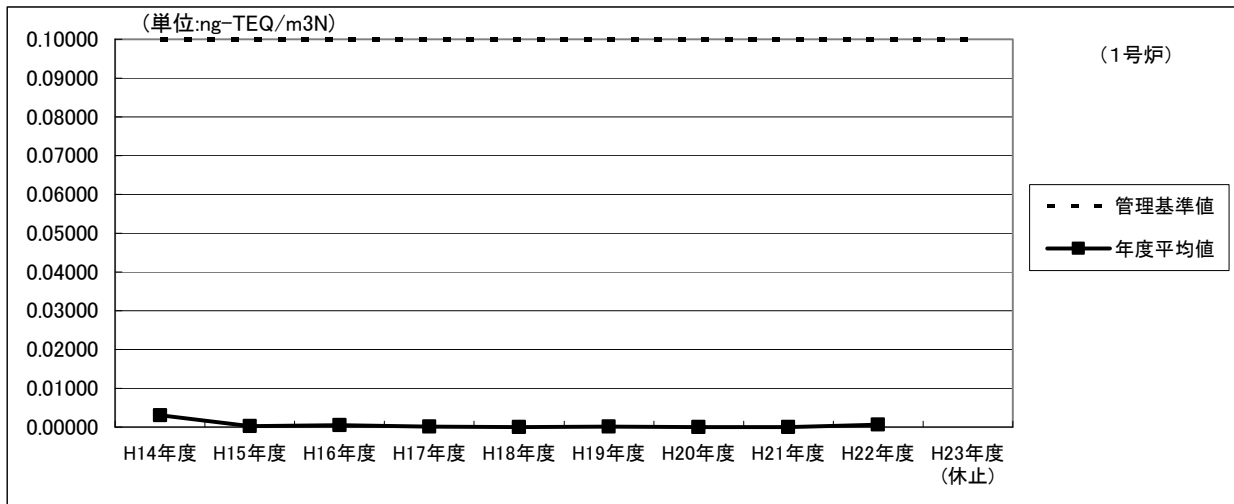


図-4 (1) ダイオキシン類過年度平均経年変化 (1号炉)

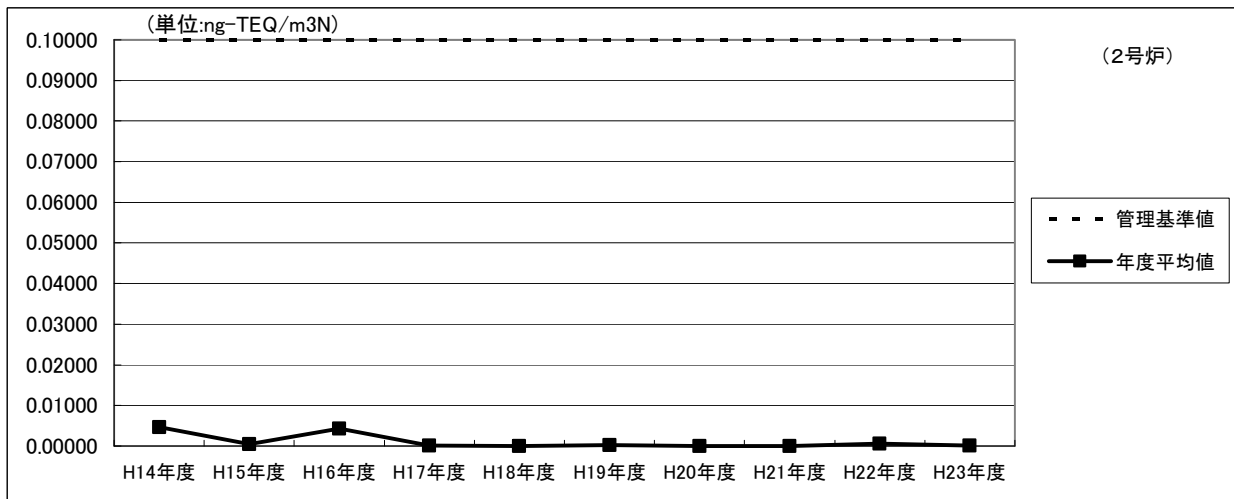


図-4 (2) ダイオキシン類過年度平均経年変化 (2号炉)

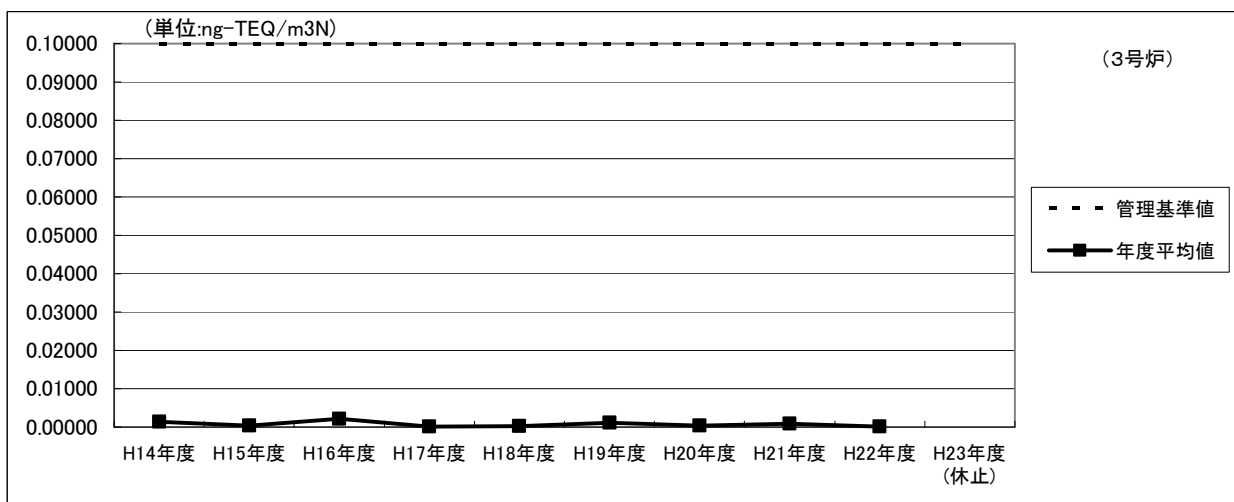


図-4 (3) ダイオキシン類過年度平均経年変化 (3号炉)